

臨床腫瘍学

【単位数：1単位，授業13コマ，予備2コマ(定期試験含まず)】
当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

久保昭仁 教授(臨床腫瘍センター)

科目担当者

森 直治 教授(緩和ケアセンター)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-b, Ⅲ-4-b, Ⅲ-5-b)

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために、がんの生物学的特性・病態。薬物療法を理解し、EBMに基づいた標準的な治療体系と集学的治療を概説できるようにする。
- ② 「プロフェッショナリズム」を修得するために、がん対策基本法からチーム医療、意思決定、医療経済、地域医療までを俯瞰的に理解する。また、腫瘍に対する支持医療、緩和医療を理解し、全人的医療を実践する知識と心構えを修得する。

(2) 学修目標

- ① がんの生物学的特徴を説明できる。
- ② がんの原因や遺伝子変化，発癌機構を説明できる。
- ③ 代表的ながん薬物療法薬について作用機序，薬物投与方法，副作用を説明できる。
- ④ がん薬物療法の効果と毒性の評価，支持療法について概説できる。
- ⑤ がん対策基本法について説明できる。
- ⑥ がんの診察におけるチーム医療を概説できる。
- ⑦ 全人的苦痛を説明できる。
- ⑧ 緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛，心理社会的苦痛を列挙することができる。
- ⑨ 腫瘍がもたらす代謝変化，栄養不良の症候群である悪液質を理解し，説明できる。
- ⑩ 症状緩和の限界，コンサルテーションの重要性を理解し，説明できる。
- ⑪ 予期悲嘆，グリーフケアについて理解し，家族のケアについて概説できる。
- ⑫ 緩和ケアチーム，ホスピス，緩和ケア病棟，在宅緩和ケアの特徴と役割が概説できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	多肢選択問題を原則とする。一部記述式問題を含む場合がある。
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験の合計が60%未満の場合は，再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する。再試験の60%以上を合格とする。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験の成績についての総括を学内メールで実施する。

これにより理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験で不合格となった者は再試験に備えること。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
新版 がん緩和ケアガイドブック	日本医師会	青海社	日本医師会が監修し、現在日本の緩和ケアの標準的教科書となっている。PDF版が日本医師会HPからDL可能。
レジュメ配付			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
入門腫瘍内科学 第4版	日本臨床腫瘍学会編集	南江堂	臨床腫瘍学の入門書。医学部生に必要な臨床腫瘍学の知識が、わかりやすくまとめられている。
Oxford Textbook of Palliative Medicine	Nathan I. Cherny ら	Oxford Univ. Press	世界標準の緩和医療の教科書である。
臨床緩和ケア 第3版	大学病院の緩和ケアを考える会	青海社	大学病院勤務医による教科書

6 準備学習（予習・復習）

授業前までに

- 授業に臨むに当たり、講義スライドをダウンロードし、内容を確認しておく(1コマあたり15分)。
- 2学年次の腫瘍学統合講義・化学療法概論・緩和ケア概論の講義内容を再確認しておく(1コマあたり15分)。
- 日本医師会のホームページから「新版 がん緩和ケアガイドブック」(http://dl.med.or.jp/dl-med/etc/cancer/cancer_care_kaitai.pdf)をダウンロードし、目次全体を眺め、どのような事項が取り上げられているのか確認しておく(1コマあたり15分)。
- 国立がん研究センター がん情報サービス(ganjoho.jp)一般の方向けサイトの「がんになったら手にとるガイド」と「もしも、がんが再発したら」をダウンロードし、閲覧しておく(1コマあたり15分)。
- レジュメの復習を行うこと(1コマあたり15分)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、小グループ討論や講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

(2) 講義の内容

腫瘍に対する診断・治療及びその基盤となる知識、緩和・支持医療の医学的知識の整理と、実臨床におけるがん患者の診断と治療の流れ、緩和ケア、治療が困難になった状況における患者・家族へのケアの流れを想定し、講義を進める。

また、特別授業で、いのちの尊さについて考える。